NEWS LETTER

Tenri University Sankokan Museum

NO.15

ニュースレター NO.15
天理大学附属天理参考館
発行日：2013. 9. 26
発　行：天理大学附属天理参考館
編　集：広報普及係

第70回企画展

青銅のまつり

【会期】2013年10月2日（水）～12月2日（月）
【会場】3階企画展示室

今から2500年ほど前、それまで見たこともない、金色に輝く硬い金属が朝鮮半島からやってきました。弥生時代前期の終わり頃、北九州に伝えられたのは銅鐸の祖型となる銅鈴（どうれい）、銅矛（どうほこ）・銅戈（どうか）・銅剣と呼ばれる細身の武器、そして鉄器でした。これらの金属製品はほどなく国内での生産が始まり、弥生時代中期以降、近畿や東海・中部地方まで分布範囲を広げました。

やがて銅鐸は近畿地方を中心とした地域で、まつりの道具として使われるようになりました。一方、武器形青銅器は、はじめのうちは実用にも耐えうるものでしたが、青銅よりも硬くて丈夫な鉄器が武器や農工具として普及すると、主に北九州で有力者の権威の象徴として、銅鏡や玉類と一緒にしばしば墓に納められました。そして、弥生時代後期には銅鐸と同様、まつりの道具として大型化しました。

袈裟襷文銅鐸

弥生時代は稲作農耕が生活の中心であり、稲を収穫するまでにはさまざまな自然の脅威（洪水や干ばつなど）との戦いがありました。青銅製のまつりの道具は、五穀豊穣を祈り、外敵の侵入を防ぎ、災いを払い退ける力を期待されたのでしょう。

ところが弥生時代の終わり、３世紀の中頃になると青銅製のまつりの道具は一斉に地上から姿を隠し、やがて銅鐸は人々の記憶からも消えてしまうのです。

今回は本館所蔵の弥生時代青銅製品（銅鐸・銅矛・銅戈・銅剣・銅鏃（どうぞく）など）を複製品も含めて約30点紹介します。また、日本の青銅器の源流と考えられる中国・朝鮮半島の関連資料、銅鐸の文様や土に埋めるなどの類似性が指摘される中国南部地方やタイの銅鼓（どうこ）など、海外の資料約60点も展示します。

古い青銅製品は緑青に覆われくすんだ緑色や、青緑色をしていますが、もともとは黄金色に近い色でした。作られた当時は目もくらむほどに輝き、まつりの場で見る人に驚きとともに畏怖（いふ）の念をかき立てる舞台装置として、まさに絶大な効果を発揮したことでしょう。

青銅器に託した古代人の想いや、その美術的な魅力をご覧いただけましたら幸いです。

饕餮文鉦

記念講演会
「まじないと青銅器」

日　時：10月12日（土）　午後1時30分～
講　師：金関　恕氏
（天理大学名誉教授・大阪府立弥生文化博物館名誉館長）
会　場：陽気ホール（当館西隣）
受講料：入館料のみで受講できます
定　員：370名（当日先着順）

トーク・サンコーカン
「卑弥呼のまつり　－銅鐸から鏡へ－」

日　時：11月16日（土）　午後1時30分～
講　師：高野　政昭（当館学芸員）
会　場：研修室
受講料：「関西文化の日」により無料
定　員：100名（当日先着順）

ギャラリートーク

日時：10月25日（金）、11月26日（火）
いずれも午後1時30分～
会場：3階企画展示室

青銅の響き －バリガムランコンサート－

日時：10月20日（日）午後1時30分～
会場：1階エントランスホール

2014年 新春展

「近代貨幣でめぐる世界の旅」　会期:2014年1月5日(日)～3月3日(月)

私たちが何気なく使っているお札や硬貨。よくよく眺めてみると、実に多様なデザインが散りばめられていることに気付きます。歴史に名を残した偉人たち、世界に誇る風景や建造物など、いずれも「日本代表」と呼ぶに相応しい顔触れです。

さらに世界の貨幣に目を向けてみると、それぞれの国と地域がプライドをかけて「代表選手」を選抜し、デザインを採用していることに気付かされます。例えば、スフィンクス（エジプト）、アンコール・ワット（カンボジア）といったユネスコ世界遺産や、ジョージ・ワシントン（アメリカ合衆国）、エカテリーナ２世（ロシア）などの歴史的人物は、出身国だけでなく世界中でその名が知られている存在です。

本展では世界各地で近代以降に発行された貨幣に焦点を当てて、その背景にある歴史と文化を紹介します。また、お金にまつわる豆知識を分かりやすく解説し、お子様にも関心を持ってもらえるように展示します。

ここでは出品予定の資料を２点紹介します。まず右側の紙幣はカンボジアで1970年代に発行された1,000リエル札です。中央に描かれているのはアンコール遺跡群のタソム寺院にある四面像です。この絵では見えていませんが、現物は名前の通り四方に顔があります。12世紀頃に作られたとされ、微笑みをたたえた表情が非常に印象的です。アンコール・ワットを含むこれらの遺跡群は1992年、ユネスコ文化遺産に登録されました。

1,000リエル札　カンボジア　1973～74年
縦 9.0cm　横 18.6cm

次に左側のちょっと変わった形のコイン。これはインドで同じく1970年代に流通していた10パイサ硬貨です。日本では硬貨といえば丸いのが一般的ですが、世界には様々な形状のものが存在します。周囲が波打った形もその一例です。ポケットから取り出す時に手触りだけですぐに「10パイサだな」と分かりそうです。普段の生活ではあまり目にする機会がない他国の貨幣。海外旅行に出掛けるような気分で展示品を眺めていただければ幸いです。（梅谷）

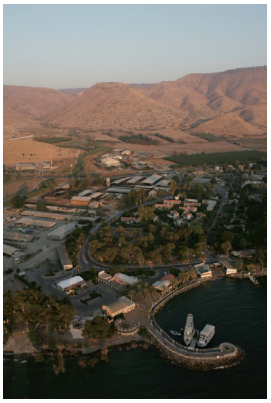
10パイサ硬貨　インド　1974年
最大径 2.6cm

イスラエルにおける発掘調査（十二）

イスラエルの北東部にあるエン・ゲヴ遺跡の遺構のうち、鉄器時代の主要な遺構については大体説明しました。エン・ゲヴ遺跡は鉄器時代に始まっていますが次のペルシャ時代、ヘレニズム時代、ローマ時代にかけて人びとの生活は継続しています。とりわけヘレニズム時代には東方約5kmの位置にヒポスという町が新たに建造され、その中継都市として重要な役割を果たしていました。

ヒポスはギリシャ(アレキサンダー大王)が中東を制圧したのち、この地域を治めるために10の主要な植民都市が建設されました。シリア南部からヨルダン北東部、イスラエルの北東地域に点在しています。これらの町をデカポリスと呼んでいました。デカは10のことです。

ヒポスはゴラン高原へ上がる途中にあり、エン・ゲヴ遺跡からは独立した丘にまるで軍艦のように聳(そび)えているのが見えます。そこには劇場や神殿、宮殿などギリシャ世界をここへ持ってきたかのようにみえる立派な遺跡群が残っています。建物の柱には遠くギリシャやエジプトの上流にあるアスワンから運んできた石材を使用していた建物がありました。これらの石材は地中海でいったん陸揚げされ、さらにエン・ゲヴが面しているガリラヤ湖を横切り、急峻(きゅうしゅん)な坂道を登ってヒポスまで運んだものです。



エン・ゲヴ遺跡(手前の林)とヒポス遺跡(向こうの山)

エン・ゲヴ遺跡はヒポスのガリラヤ湖に最も近接した遺跡で、ヒポスへ物資を運ぶにはこの町を経由しなければなりません。私達が発掘したエン・ゲヴ遺跡では比較的小規模な町と城壁しか見つかっていませんが、ヒポスを建設した労働者や工人が住んでいた町と考えて良いでしょう。町を建設した人びとは毎日、エン・ゲヴから通っていたのでしょう。また、ローマ時代には寒村(かんそん)となっていたでしょうが、石灰を造る窯が３基見つかっていて、あるいはキリストの時代、この湖の漁師で弟子であったペテロはここに立ち寄っていた可能性があります。(山内)

松田顧問の考古余話⑤　鍛えられる発掘技術

３年前の夏、橿原市の藤原宮跡の発掘調査で、天皇の即位儀礼が執り行われた大嘗祭（おおにえのまつり）の建物や塀が確認できたと報道されました。大嘗祭の起源に関わる重要な発見だと思われましたが、事実は建物と見なした穴が柱穴ではなかったとして、その数ヶ月後に訂正されたのです。

日本の発掘調査の技術水準は世界でも高いといわれています。それは、豊富な木材資源を建物などに用いるため、石や日干し煉瓦の構造物とは異なり、腐食すると痕跡がわかりにくくなる遺構と常に向かい合わなければならないからです。考古学者はそういった難易度の高い発掘経験を積むほか、判断が難しい場合は複数の目で観察・精査し、現地で納得が得られるまで検討を重ね、痕跡を正しく探り当てる術を身につけるのです。

それでも希に観察を誤ったり、思い込みに左右されるなどして、間違えて発掘してしまうこともあり得ます。冒頭の発掘はその誤った事例で、多くの批判が寄せられたようです。しかし、当然のこととはいえ有耶無耶にせず、失敗を自ら認めて正しい結果を公表したことに、いろいろな発掘調査の現地を知る私には、あらためて遺跡と真剣に向き合おうとする姿勢が窺えました。

資料紹介

駅弁ラベル「鯛飯御弁当（たいめしおべんとう）」

当館には故山本不二男氏が収集した、乗車券を中心とする交通関連のコレクションを収蔵していますが、その中でも風変わりなものとして駅弁ラベル（駅弁票、レッテルとも呼ばれる）約１万点があります。明治から現代に至る、全国各地、色とりどりのラベルには、現在では見ることができなくなってしまったものも含まれています。

掲出の資料は明治 30 年に登場した静岡駅の名物駅弁、日本最古参の鯛飯駅弁ラベルです。煮崩れしてしまった鯛をご飯にのせて出してみると、その甘い味付けと軽い舌触りが意外にも子供にうけたため、駅弁として販売することになったと言われています。富士山を背景に、鯛が跳ねるさまがダイナミックにデザインされていて、昔ながらの紙や印刷もあいまって、旅情をそそったのでしょう。車窓からの景色を眺めながら、地元の特産品をいただくのは、鉄道旅行の醍醐味の一つですね。（乾）

駅弁ラベル「鯛飯御弁当」静岡駅
昭和４（1929）年　縦 18.8cm

周辺の見所

正暦寺（しょうりゃくじ）

当館より北東へ６㎞程行った山あいに、紅葉で有名な正暦寺があります。ここは薬師如来を本尊とする菩提山真言宗（ぼだいせんしんごんしゅう）のお寺ですが、また、境内を流れる菩提仙川（ぼだいせんかわ）の清流を用いて、初めて清酒が醸造された場所でもあります。そのためここには「日本清酒発祥之地」の碑（いしぶみ）が建っています。もともと寺院での酒造りは禁止されていましたが、神仏習合（しんぶつしゅうごう）の形態をとる中で、仏に献上するお酒を荘園からあがる米で自家製造したのが清酒造りの始まりだったといわれます。

僧侶が醸造するお酒は「僧坊酒（そうぼうしゅ）」と呼ばれ、繁栄時には大量の「僧坊酒」を作ることができる筆頭格寺院となっており、その技は室町時代を代表するものでした。このことから正暦寺での高い酒造技術は、現代の清酒造りの礎を築いたものであり、その原点をこのお寺に求めることができると思います。

正暦寺には 3000 本以上の紅葉（もみじ）があり、秋には徐々に色づき始め、山内（さんない）をあでやかに染めます。その中でも福寿院で見る紅葉はまた格別。酒を飲まずとも景観に酔いしれることは間違いないでしょう。（太田）

正暦寺　奈良市菩提山町

公開講演会トーク・サンコーカン

◇いずれも午後１時 30 分開講（申込不要）
◇会　場：研修室
◇受講料：無料（ただし入館料が必要）
◇定　員：100 名

第 224 回『１万年ほど前の天理
―布留遺跡縄紋時代早期の調査報告―』
９月 28 日（土）　講師 / 太田　三喜　学芸員

奈良県天理市に所在する布留遺跡は古墳時代の遺跡として著名ですが、縄紋時代から人々の営みがあったことが発掘調査で確認されています。1990 年代には今から約１万年前の縄紋時代の遺跡が調査され、多くの遺構や遺物が発見されました。今回は整理を終えたこの遺跡の実態に迫りたいと思います。

第 225 回『卑弥呼のまつり　―銅鐸から鏡へ―』
11 月 16 日（土）　講師 / 高野　政昭　学芸員

弥生時代の終わり、突如として消えてしまう銅鐸。五穀豊穣を祈る大切なまつりの道具といわれる銅鐸が、なぜ忘れ去られてしまったのか。この時期はちょうど卑弥呼の時代と重なります。一体何があったのか、考えてみます。

第 226 回『馬・午・ウマのおはなし』
2014 年１月 25 日（土）　講師 / 幡鎌　真理　学芸員

馬は人間が最も早い時期に家畜化した動物の一つであり、近代的な交通・運輸手段が導入されるまでは最速の乗り物でした。また神の乗り物としても世界的に流布しています。2014 年午年のはじめに、古来わたしたちとつながりが深い「馬」について、ペガサス、絵馬、左馬（ひだりうま）、競馬、丙午（ひのえうま）…など様々ご紹介いたします。

第 227 回『時代の寵児（ちょうじ）ハインリッヒ・シュリーマン
―黎明期の考古学―』
２月 22 日（土）　講師 / 巽　善信　学芸員

子供の頃ホメロスの叙事詩に描かれているトロイは実在すると信じ、逆境に耐えながら商人として成功をおさめ、50 歳にいたって念願のトロイの発掘を実現したハインリッヒ・シュリーマン（1822-1890）。そのサクセスストーリーが描かれた『古代への情熱』は今も多くの読者を魅了しています。黎明期の考古学で活躍したシュリーマンを通して、時代の寵児とは何かを考えてみようと思います。

第 228 回　『天災を伝えた幕末明治の刷り物』
３月 15 日（土）　講師 / 中谷　哲二　学芸員

2011 年３月に起きた東日本大震災から 2014 年で早や３年、1923（大正 12）年９月の関東大震災から 90 年余り。地震だけでなく火山噴火や風水害などの天災に対する関心はとみに高まっています。大地震や水害などの様子を伝えた幕末のかわら版・冊子や石碑、そして明治から昭和初期の刷り物・絵葉書・雑誌などをご紹介し、当時の人々の心情に近づきたいと思います。

ワークショップ　参加者募集！

「バリガムラン体験講座」

○参加費 /1,000 円（入館料を含みます）
○実施日 /10 月 13 日（日）～ 2014 年３月まで
　正午～午後３時　毎回第２日曜日

「クラッシックギター講座」

○参加費 /1,000 円（全９回分、入館料を含みます）
　※別途、楽譜代・消耗品代（弦等）実費 3,000 円が必要です
○実施日 /10 月２日（水）～ 2014 年３月まで
　午後１時 30 分～３時 30 分　毎回水曜日を予定

編集後記

駐車場のアメリカフウももうすぐ真っ赤に紅葉します。高く澄んだ秋空とのコントラストがとても美しく、ついつい見とれてしまいます。
また、３階休憩コーナーからは見事な銀杏並木も！ぜひお出かけください。（Ｙ）

お知らせ
11月16日(土)と17日(日)は関西文化の日で入館無料だよ！

世界の生活文化と考古美術の博物館
天　理　大　学　附　属
天理参考館
TENRI UNIVERSITY SANKOKAN MUSEUM

住所：〒 632-8540　奈良県天理市守目堂町 250
TEL：0743-63-8414　FAX：0743-63-7721
URL：http://www.sankokan.jp/

開館時間：午前９時 30 分～午後４時 30 分（入館は午後４時まで）
入館料：大人 400 円／団体（20 名以上）300 円
小・中学生 200 円（学校単位の団体は無料・事前申し込みが必要）

携帯電話のサイトから情報をご覧頂けます